令和２年度第２回古賀市地域活動サポートセンター運営委員会

会議録

１．日　時　　令和２年 10 月９日（金）　13 時 30 分～14 時 30 分

２．場　所　　サンコスモ古賀 203・204 会議室

３．出席者

（委　員）三木貞会長、森本幸代委員、大須賀理恵子委員、青柳清隆委員、
山田小織委員、真鍋憲司委員、結城俊子委員、玖島昭二郎委員
※欠席…柳武繁行副会長、坂本直大委員

（事務局）介護支援課　課長：星野美香
介護予防係　係長：岩熊和洋、仲野摩利子、梅谷佐和子、大嶋真貴、谷口治、
大山由紀子
社会福祉協議会　船越郷子

古賀市地域活動サポートセンター条例施行規則第 16 条第２項の規定により委員定数 10 名のうち過半数の出席があり、会議は成立。

４．傍聴者　　なし

５．議題

（１）古賀市地域活動サポートセンターにおける高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2018 年～2020 年）の振り返り

（２）その他

６．資料

・古賀市地域活動サポートセンターにおける高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2018 年～2020 年）の振り返り
・古賀市地域活動サポートセンター「ゆい」は、どんな活動をしているの？
・令和元（平成 31）年度の主な事業
・第８期介護保険事業計画・第９次高齢者保健福祉計画に係るパブリック・コメントについて

７．会議内容

（１）市あいさつ（介護支援課長）

（２）会長あいさつ

（３）古賀市地域活動サポートセンターにおける高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2018 年～2020 年）の振り返り

事務局より、古賀市地域活動サポートセンターにおける高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2018 年～2020 年）の振り返りについて活動の視点ごとに説明、質疑。

【質疑】

●地域支え合いネットワークの構築について

（委　員）　生活支援コーディネーターについて、１層、２層の説明はあったが、３層を作る予定はあるのか。

（事務局）　市職員の 1 層と社会福祉協議会に委託している２層の生活支援コーディネーターが連携して少しずつ地域のネットワークづくりを進めている。今は２層の生活支援コーディネーターは一人しか配置できていないが、今後増やして行きながら、地域のネットワークづくりを進めたいと考えている。

生活支援体制整備事業では第３層は住民組織という考えになるため第３層の生活支援コーディネーターを作る予定はないが、ボランティア等地域の担い手を協力者としてつながりを多く持ちたいと考えている。

●人材育成について

（委　員）　課題には上がっていないが、新型コロナウイルス感染症の影響は何かあるか。

（事務局）　影響はある。新型コロナウイルス感染症の影響で令和２年度の介護予防音楽サポーター養成講座を中止した。また、施設で配膳や傾聴を行っていたサポーター活動もできていない。

介護予防サポーターは毎年更新・登録をしていただいており、平成 31 年度は 238 人の方に登録していただいた。サポーターは毎年登録をし直しており、今年度は 4 月から少しずつ登録が増え、現在 201 人の方がサポーター登録しており、コロナ禍であってもサポーターの皆さんの意欲の高さを感じる。

まだサポーターの活動の場が十分に再開していない状況であり、サポーター活動はサポーター自身の生きがいにつながるため、活動の場を増やす

ことが、ゆいの課題である。

（委　員）　31 年度の支援回数は 6,000 回もある。介護予防サポーターの支援要請に対して、応えることができているか。

（事務局）　サポーターの皆さんは、ボランティア精神に基づいて、意欲のある方に多様な活動を行っていただいている。新型コロナウイルスの影響により今年の２月頃から活動ができない状況が続いていたが、７月から地域のつどいの場は少しずつ活動が増え始めており、支援要請に応えている。施設では、支援要請はまだない状況だが、要請があれば随時マッチングしていく。

（委　員）　課題の中に、若い世代のサポーターを増やすとあるが、どんな取組みがあるか。

（事務局）　介護予防サポーターは高齢化している。

介護予防サポーターの活動が平日になることが多く、若い世代が地域の支援に行くのはどうしても難しい。ボランティアは高齢者が行うイメージを変えて行きたいと考えている。各所で行われているサポーターによる支援が継続していけるように、若い世代の方にもやりがいがあることを伝えて、担い手として活動していただきたいと思っている。

●社会資源の見える化・情報提供について

（委　員）　課題として高齢者のニーズに応じた情報を届ける手段の工夫が挙げられているが、実際に把握しているニーズがあれば教えて欲しい。

（事務局）　コロナ禍でも高齢者に自宅で充実した生活を送っていただくことが大事と考えている。ゆいでは、地域のつどいの場で学んだことを家で実践する「家トレ」を推進してきた。鍵盤ハーモニカにおいても口腔機能の維持のために日常的に自宅で練習をするということを重視し、独自の教材開発も行ってきた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で地域のつどいの場に集えなくなると自宅でひとりでは練習しなくなる、という声が聞かれた。今のような自粛生活が長引いた場合、自宅でセルフケアを継続して行うことが健康の維持のために重要になるので、家トレを継続する工夫として、自分ひとりでもできる教材の開発や配布、ホームページへの掲載を行っている。

●住民交流の場の構築・提供について

（委　員）　ご近所カフェの運営は行政が行っているのか。

（事務局）　ご近所カフェの運営は個人、または近所の少人数のグループで行っている。

行政区単位ではヘルス・ステーションなど地域の公民館で行っている活動があるが、ご近所カフェは、歩いて行ける身近な場に集う人に寄り添う運営をしている。

（委　員）　どういった形で広報しているのか。運営費用はどうなっているのか。

（事務局）　近所の方を対象にしてこじんまりと開催しているものなので、口コミで広がっている。運営については、そこそこのやり方があり、参加費を取るところもある。

（委　員）　ご近所カフェは何箇所あるか。

（事務局）　５箇所。これから始めたいと思っている方が５人ほどいる。生活支援コーディネーターが中心となり、ご近所カフェを運営している方、もしくはこれから開いてみたい方に集まっていただき、定期的にご近所カフェ連絡会を開いている。お互いの近況や困りごとを相談したり、共有している。参加者から「ゆいが主催者一人ひとりの思いを大切にして支援してくれるのが嬉しい」と言っていただいている。ご近所カフェスタッフには介護予防サポーターとして登録していただき、保険をかけてる等の支援もしている。

（委　員）　活動で運動や音楽も行っているのか。

（事務局）　行っている。ご近所カフェは個人で行っているところが多いが、運動や音楽の介護予防サポーターの依頼があれば、マッチングして支援している。

●地域活動と社会資源のマッチングについて

（委　員）　地域活動は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているが、市はどのように考えているか。

（事務局）　古賀市においては、「新型コロナウイルス感染症対策チェックリスト」に基づき地域活動を行っていただきたいと考えている。感染症対策が講じられている地域等へは介護予防サポーターの派遣も再開している。

地域等から介護予防サポーターの依頼があったときは、ゆいの職員が感染症の対策状況を確認しに行っている。改善が必要な場合は、指導や提案を行って活動再開を支援している。

●地域介護予防・生活支援の推進について

（委　員）　「家トレ相談室」は健康運動指導士が自宅に来てくれるのか。

（事務局）　基本的な体力測定項目のなかに個人宅では実施が難しいものがあるため、現在はゆいまで来ていただいている。「家トレ相談室」は毎週火曜日、事前予約制で一人当たり 20 分程度を目安にしているが、参加者の希望や身体的な能力等に合わせて一人ひとりに助言している。

（委　員）　「フレイル対策カード」はいつから配布するのか。

（事務局）　最初に 11 月 11 日の介護の日に併せて 10 月下旬に開催するボールンピック大会で配布を始め、その後、シニアクラブ連合会等を通して随時配布する予定である。カードの片方の面に福岡女学院看護大学の学生や市内の幼稚園・保育園児、高校生に高齢者に向けたメッセージを手書きしてもらい、もう一方の面にフレイル予防のために大切な３つの柱（体を動かすこと、栄養をしっかりとること、社会参加をすること）を分かりやすく記載している。押しつけではなく、自主的な介護予防のきっかけになると考えている。新型コロナウイルス感染症の影響で高齢者と子どもの交流が少ない状況があり、紙媒体ではあるが、世代間交流を行うことで高齢者を元気づけたいと思う。

（委　員）　地域の高齢者との係わりで福祉会が大きな役割を果たしていると思うが、例えば、外出促進事業は区長へは登録イベント募集の連絡があるが、福祉会には連絡がない。介護支援課と福祉会の連携についてどのように考えているか。

（事務局）　福祉会においては、高齢者を地域で支えていただいている。また、シニアクラブや民生委員の皆さんも同様に地域の高齢者を支えていただいていると認識している。

外出促進事業は、高齢者向けのイベントのみではなく、夏祭り等幅広い年齢層の方が参加するイベントも対象としているため、現在は自治会長である区長を通して登録イベント情報を集め、自治会内のイベントが重複して登録されないように取りまとめをお願いしている。

つどいの場として、福祉会との連携は一層大事になるため、今後もネットワークの強化を図りたいと考えている。

（４）その他

【質疑】

（委　員）　地域の活動は公民館で行うことが多いが、公民館まで出て来ることができない人に対する支援はあるか。

（事務局）　地域包括支援センターの職員がチェックリスト等に基づき、７５歳以上の人を訪問したら次は７０歳以上といったように、順々に個別訪問を行い高齢者の生活状況の把握を行っている。

（委　員）　「住民交流の場の構築・提供」の主な成果で「令和２年度のボールンピック大会を試みでリモートで行う」とあるが、どのように開催するのか。

（事務局）　例年であれば多くのチームが市民体育館１カ所に集まって開催していた。

昨年度は 51 チームが参加し、今年度は現在 42 チームが参加の申込をしている。1チーム7名以内とし、1つの会場で1チームのみゲームを行う。3カ所の会場をインターネットでつなぎ、1日4回、4日間かけて交流・対戦を行う。これまで遠くの会場まで行けなかった方も自宅の近くの会場だと参加しやすくなると思う。

実際に今回ボールンピックに参加される高齢者から、「今回は歩いていける場所なので良かった」という声が聞かれた。そのためか、新型コロナウイルス感染症の影響で参加状況を測りかねていたが、予想以上に多くの参加申込があっている。

（委　員）　そのうち家で体操等に参加できるようになればいいと思う。

（事務局）　11 月5日と 12 日に介護予防運動サポーターのフォローアップ研修会を行う。これまでは講師はサンコスモ古賀に来ていただいていたが、今年は広島からインターネットを通じて指導していただく予定である。受講者はサンコスモ古賀とインターネット環境がある地域の公民館をリモートでつないで受講していただくが、希望者はスマホ等で受講することもできる。

新型コロナウイルス感染症の影響でこれまで「普通」に行っていたことができなくなった。ゆいの職員が何とかしようと考え、色々な試みを試していると、意外に高齢者のニーズに合っていることが出てきている。

地域のつどいの場に集う高齢者を支援することが大事だが、外出することが困難な人の自宅での活動や情報の取得を支援していきたいと考えている。

（5）閉会あいさつ（介護予防係長）